

介護が「産業」になると…!?

今年の桜は近頃珍しく遅く、満開の中入学式を迎えられた方も多かったことでしょう。それが過ぎると早くも初夏のような日差しです。

えんは、年度最後の3月31日に、20周年記念植樹を行いました。20年前この建物に移ってきたときの記念植樹の杏が2階の窓を超す高さに育ち、3月彼岸ごろには桜より色の濃い花を咲かせ、6月には熟した実をジャムにしてグループホームの朝食に添えます。これからの20年は、今までにまして厳しい世の中になりそうな予感がしますが、そうであればなおのこと介護福祉NPOの役割は大きくなるはずです。今回の記念植樹は紅梅。冬に耐えて咲く花にならねばと思います。

近年介護は「産業」に位置付けられ、日本生命、損保ジャパンなどが介護事業を買収、大きなシェアを占めるようになっていきます。それどころか米国ファンドが所有するデイサービスなどが市内にも見られるようになりました。介護保険が始まる時、非営利団体だけではサービス量が足りなくなると営利事業者の参入を認めましたが、最近では社会福祉法人の影が薄い。

「株式会社」だから質が悪いなどとは言えません。けれども基本的な目的は「利益を上げること」です。賃金や待遇の低さから人手不足は極限状態に近づく今、営利法人が利益を上げるために「からくり」が仕込まれています。たとえば損保ジャパンなどが実証実験したICT化による有料老人ホームの職員基準の緩和。ロボットなどを入れて介護職員を減らすことがこの度認められました。施設での夜間対応職員は原則1フロア1名(25床の場合)、転倒予防センサーが鳴っても他の人の介護をしていれば駆け付けられない。性急な緩和は介護現場をますます疲弊させるだけでしょう。

先日、高級有料老人ホームを見学しました。ダイルームにはグランドピアノ、あちこちに美しい花が飾られ、職員の言葉遣いも丁寧でした。利用料金は前払い金なしの場合、要介護5で月額65万円を超えます。夜勤体制は52室に対して介護職2名看護1名。看護職が夜勤帯において医療が必要な方を支えています。ちなみに9人の入居者に1名の夜勤体制のわがグループホームえんは、介護5なら月額18万円程度。それだって支払いが無理とあきらめる方の方が多い現実…。介護保険は「社会連帯の」制度です。サービス利用に使えるお金がないからと、介護サービスをあきらめさせる現状は間違っています。

代表理事 小島美里

